



## 洪水（大水）はどうして起こるの

### 森林に木が少なく、大雨が降るときなどに起こる

ふつう、山には森林が多いので、山に降った雨は、地面を一気に流れてしまうことはありません。雨水は山のしゃ面を、少しずつ流れながら地面にしみこんでいき、木の根に吸われたり、土のすき間にたくわえられたりします。雨水の一部は、さらに深くしみこんで地下水になります。

しかし、山に木が少なかったり、山の地ばんが悪かったり、雨の量が非常に多いときには、雨水はすぐに流れて、川に流れこんでいきます。

すると、川の上流では、岩のかけらや、土砂が混ざった水が流れこみ、水が勢いよく流れていきます。

川の中流や下流では、上流からの水のほかに、川のまわりからも、土砂が混ざった水が流れこみます。すると、たくさんのどろ水が、激しい勢いで流れて、堤防をこえたり、堤防をこわしたりして、洪水が起こります。

### 日本は洪水が多い

日本の川は、大陸の川に比べて、川底のかたむきが急で、川の長さが短いので、洪水がよく起こります。

春先の雪どけ水、梅雨や台風のとときに降る大雨などによって、川の水の量が急激に増えて、洪水がよく起こります。洪水は道路や田畑、家屋などに大きな被害をあたえます。

（監修・国司 真）

